

略

〔執次詰所本御系譜〕東山院諱朝仁、靈、御實母敬法門院藤宗子、中御門前内大臣宗條公女、略 節

〔本朝紹運續錄〕中御門院御諱慶仁、御母新崇賢門院賀子柳筍隆賀公女

〔皇胤鑑〕櫻町院諱昭仁、御母女御、近衛攝政家熙公女、新中和門院尙子、

〔續百一錄〕寬延三年六月廿七日、大宮御所後櫻町、御門號青綺門院、御治定候、自今可奉稱女院

樣旨被仰出候、

〔續々紹運錄〕後桃園院諱英仁、母恭禮門院藤富子、一條前關白兼香公女、

〔執次詰所本御系譜〕光格天皇略、中、天明三年十月十二日、御養母盛化門院崩、同十一月十七日、渡御

于倚廬、著御錫紵、

〔續三宮傳〕新清和院光格帝皇后、後桃園院第一皇女、寬政六年三月七日、立太后、文化四年七月十八

日、寬宮孝仁、御實子御治定、天保十二年後正月廿二日、院號定新清和院、自今奉稱女院

〔續三宮傳〕新朔平門院仁孝帝後參、鷹司關白政通公女、文政八年八月廿二日、聽輦車入内、弘化四年

三月十四日、皇太后宮、同年十月十三日、院號定、稱新朔平門院、

〔二代要記八〕太皇太后章子内親王承保元年六月十六日、停后、後冷泉后

〔榮花物語三十九〕后た、せ給ふべけれと隙なきことをいかとおぼしめされて、ささき後三

子を院になし奉らんと思しめす、略、十六日承保元年六月、太皇太后宮後冷泉、女院にならせ給

ぬ、としごろも一と、ころ院にならせ給べし、亥だいにては太皇太后宮ならせ給べし、さらずば中

宮こそは故院の后にもおはしまし、内河白の御まゝ母にもおはしませばなと申つるを太皇太

后宮ならせ給ぬれば、ささきにてもおはしまさでと申人もあり、又ならせ給はではいかはな

と申人もありけり、みかどの御おやならぬは、まだならせ給はざりければ、めづらしき事に人申、

三后爲院